

概要

本学における地域連携は、2009(平成21)年に開学と同時に設置された地域連携センターが、地域連携及び産学官連携の中心的な窓口となり、大きく次の3つの取組みを行うことで、本学の教育研究活動の推進、地域社会の発展に貢献してきました。

<産学官連携の推進> 産学官連携を推進すべく、自治体との連携協定の締結、企業や自治体、大学等との連携事業への参画、共同研究促進のための研究情報等の発信を行ってきました。

<教員、学生の地域活動の支援> 教員、学生の専門性を活かした地域活動を支援し、地域の課題解決、地域の活性化に貢献してきました。

<公開講座の開催> 県民の生涯学習の場として、公開講座の開催などの学習機会を提供してきました。

国内協定

新潟市との包括連携協定

本学と新潟市は2009(平成21)年7月に包括連携協定を締結し、以来、協力しながら地域の発展と、地域に貢献できる人材の育成に取り組んできました。

南相馬市との連携協定

本学と南相馬市は2015(平成27)年3月に連携協定を締結し、人間生活学部の植木信一教授が中心となって、被災地支援活動、特に被災地の子どもへの支援活動に取り組んできました。



南相馬市の子ども支援に取り組む学生

ボランティア・地域活動

通船川とじゅんさい池と地域に育てられる県大生

この10年、「都市・地域デザイン演習」の歴代教員は大学の畔を流れる通船川の沿川地域を課題地とし、地元のコミュニティ協議会やNPO新潟水辺の会などをカウンターパートとして、学生たちをフィールドに送りだしてきました。一人ひとりが地域と向き合い、聞き取り調査や現地踏査を重ね、地域の方々のアドバイスを受けながら提案を束ね、毎年地域で成果発表を行ってきました。その結果、初めて学生の提案を拾い上げ、地域で育ててくれたのが「東区夜景ツアー」でした。その後、東山の下地区コミュニティ協議会では演習の翌年に学生たちをじゅんさい池環境保全活動に誘い、公園の看板デザインやキャンドルナイトのイベントなど地域活動の実践の場を与えてくれました。今年、2019(令和元)年もまた、演習の翌年に学生たちが自主的に結成した「通船川みずべの窓口」という活動を様々な方々が応援してくれています。そのような地域活動の延長上で卒業研究に取り組む学生たちも複数現れ、まさに地域によって県大生が育てられています。



手漕ぎボートで通船川を渡る学生たち



学生たちがデザインしたじゅんさい池公園案内板



地元の方とじゅんさい池の蕪狩りをする学生

新潟市ちよいしおプロジェクト

新潟市が健康寿命延伸事業として、市民の減塩と野菜の摂取を目的にした取り組みである「ちよいしおプロジェクト」に本学人間生活学部の学生が2017(平成29)年度から参加しています。学生は市内の農家レストラン、スーパー等と連携し、減塩で野菜たっぷりの外食や中食(弁当、惣菜)のメニューを開発し、各店舗で販売、提供しました。



スーパーでの試食体験を行う人間生活学部の学生

「天明町」での空き家活用

新潟における経済の中核に位置した「天明町」は、新潟駅から徒歩圏内にある近隣商業地域です。最寄りにはオフィス街や大型商業施設があり、主要な商圈に隣接した恵まれた立地性を有している一方で、大量の空き家が発生している課題先進地域でもあります。

空き家の大量発生は、災害や犯罪の温床につながり、土地の価値を著しく減少させ、税収の減少による社会サービスの低下とともに、中心市街地を衰退させる負の循環を招きます。危機感をもった天明自治会は、空き家に関する調査や提言を国際地域学部の関谷浩史准教授の研究室に求め、天明町をフィールドとした空き家対策活動が2016(平成28)年からはじまりました。

その後、有志のゼミ生とともに、新潟県のビジネスプランコンテスト「潟チャレ」にエントリーし、最優秀賞を獲得したことを契機に、翌年には築53年の空き家をリノベーションした実験拠点「T-Base」を開設し、新潟市の「がんばるまちなか支援事業」に採

択されました。拠点名には、空き家という未利用空間に付加価値を与え、地域の“課題”を“魅力”にTransform(変換)させる思いが込められています。

T-Baseの活動は、まだ初動段階にすぎませんが、空き家という負の遺産に対し、空間の価値を“住む(文化)”から“利用(経済)”に変換させ、「空き家活用の商業化」という新たな資産価値の創出につなげ、空き家を減らすメソッド開発を目指していきます。



築53年の空き家をリノベーションした実験拠点



中古住宅の流通を促進させるWEBページ

地域連携センターニュースの発行

学外に本学の地域活動を発信すべく、2017(平成29)年度から教員・学生の地域活動を紹介する「地域連携センターニュース」を発行しています。



地域連携センターニュース vol.1

大学の支援体制

学外から届いた、ボランティアや地域活動募集の案内については、それぞれキャリア支援センターと地域連携センターで受け付け、都度、掲示板等で学生に紹介してきました。こうした案内が年々増加傾向にあり、加えてインターンシップへ参加する学生も多くなってきたことから、2018(平成30)年度には、両センターで、これらの活動の意義と魅力を伝え、学生が安心安全に参加できるよう、「ボランティア・地域活動、インターンシップのしおり」を作成しました。



ボランティア・地域活動、インターンシップのしおり

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

2015(平成27)年度から新潟大学を中心とする県内大学と共に、文部科学省の地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に取り組んできました。本学は、様々な取組みのうち、主に「教育の国際化」「国際交流」の分野で参画しました。

「教育の国際化」では、日本語支援室を開室し、日本語教員による、留学生への日本語学習の支援を行いました。一方、「国際交流」では、夏休みの1週間、新潟に集った海外協定校の学生らと本学学生で、「グローバル時代の地域力」をテーマに、地域の魅力を活かした、まちおこしへの発展の可能性等について考えを深め、異文化理解・異文化交流が図られました。



サマーセミナー参加学生・教職員

特別受講生制度

新潟県立大学では、県民の生涯学習意欲の高まりに応えるとともに、地域に開かれた大学となることを目指した、特別受講生制度を実施しています。授業科目の一部を一般開放し、学生とともに学んでもらうところが特色です。この制度は県立新潟女子短期大学時代の1987(昭和62)年に始まり、新潟県立大学が開学してからは、2019(令和元)年前期までに延べ940名の方が科目を修了しています。

講演会、シンポジウム等実施状況(2009(平成21)年度～2018(平成30)年度)

実施年度	内容	講演者・出演者(学者のみ:役職名は当時)
2009 (H21)	新潟県立大学開学記念講演会「ステージは地域、そして世界 新潟県立大学始まる」	佐々木 えるぎ[2009ミス・ワールド日本代表]、末松 氷海子[フランス児童文学翻訳・研究者]
	国際情勢講演会「東アジアの将来と日韓関係」	高野 紀元[元韓国大使]
	国際情勢講演会「日本とは別世界 - ロシアはどうしてロシアなのか?」	河東 哲夫[元ウズベキスタン大使]
	特別講演会「最近の中国情勢と日韓関係」 「地域と大学を考えるシンポジウム」	阿南 惟茂[前中国大使] 原田 泰[株式会社大和総研常務理事チーフエコノミスト]
2010 (H22)	国際情勢講演会「日韓関係について」	大島 正太郎[前韓国大使]
	国際情勢講演会「日中関係について-隣国中国とどうつきあっていくのか-」	渡邊 幸治[元中国公使、元ロシア大使]
	国際情勢講演会「ロシアについて」	松井 啓[初代カザフスタン大使]
	政策研究センターシンポジウム「北東アジアの現在と未来 - 新潟の進むべき道」	泉田 裕彦[新潟県知事]、国分 良成[慶應義塾大学教授]、小此木 政夫[慶應義塾大学教授]、袴田 茂樹[青山学院大学教授]、セルゲイ・ブーテン[在新潟ロシア連邦総領事]、延 上模[駐新潟大韓民国総領事]、王 華[中華人民共和国駐新潟総領事]
2011 (H23)	国際情勢講演会「アジアの巨龍、中国とどう取り組むか～最近の中国情勢と日中関係」	谷野 作太郎[元中国大使、元インド大使]
	国際情勢講演会「最近の韓国情勢と日韓関係」	董家 俊範[前韓国大使]
	国際情勢講演会「北東アジア情勢について」	谷内 正太郎[元外務事務次官]
	政策研究センターシンポジウム「地域振興とグローバル人材の役割」	原田 泰[株式会社大和総研顧問(公財)東京財団上席研究員]
2012 (H24)	環日本海国際政治経済シンポジウム	国分 良成[防衛大学校長]、浅野 祐樹[山口県立大学准教授]
	国際情勢講演会「急速に台頭する中国、依然不安定な朝鮮半島～日本はどう向き合っていくか～」	田中 均[前外務審議官]
	国際情勢講演会「最近のロシア情勢と日中関係」	東郷 和彦[前オランダ大使]
	国際情勢講演会「変わりゆく中国と日中関係」	宮本 雄二[前中国大使]
2013 (H25)	ドナルド・キーン講演会	ドナルド・キーン[コロンビア大学名誉教授]
	国際情勢講演会「オバマ第2期政権の外交について」	藤崎 一郎[前アメリカ大使]
	国際情勢講演会「我が国外交の課題～新興外交の観点から～」	島内 憲[前ブラジル大使]
	国際シンポジウム「北東アジアにおけるグローバル時代の人財育成」	アレクサンダー・ズバーレフ[太平洋国立大学副学長]、陳 百海[黒龍江大学東語学院長]
2014 (H26)	国際情勢講演会「最近の世界情勢と日本外交について」	宮家 邦彦[前外務省中東アフリカ局参事官]
	国際情勢講演会「核セキュリティ・サミットの意義と限界」	美根 慶樹[元ユーゴスラビア連邦共和国大使]
	国際情勢講演会「日本外交の行方」	飯中 三十二[元外務事務次官]
	国際情勢講演会「ウクライナについて(東アジアに対する意味をどう判断するか)」 特別講演会「日本経済の成長と国際ビジネス」	黒川 祐次[元ウクライナ大使] 若杉 隆平[学習院大学特別客員教授]、住田 湖[筑波大学大学院教授]
2015 (H27)	大学院開設記念シンポジウム「地殻変動する東アジアと日本の役割」	天見 慧[早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授]、信田 智人[国際大学副学長・研究所長]、三村 光弘[環日本海経済研究所調査研究部長]
	国際情勢講演会「グローバル化と安全保障の課題」	上田 秀明[元オーストラリア大使]
	南相馬市長講演会「宮沢賢治に学ぶ生き方」	桜井 勝延[福島県南相馬市長]
	国際情勢講演会「イスラエルと中東和平問題」 国際情勢講演会「究極の安全保障としての文化力」	茂田 宏[元イスラエル大使] 近藤 誠一[元文化庁長官]
2016 (H28)	大学院国際地域学研究所主催シンポジウム「東アジア国際関係をどう読み解くか」	木村 幹[神戸大学大学院国際協力研究科教授]、三浦 瑞麗[東京大学政策ビジョン研究センター 客員研究員]、平岩 俊司[関西学院大学国際学部教授]、細谷 雄一[慶應義塾大学法学部教授]
	アセアンと日本シンポジウム「現代の教育と家族からみるアセアンと日本」	ハリ・スハルディヤント[ボゴール農科大学(インドネシア)学長]、小倉 和夫[元越大使・韓国大使]
	国際情勢講演会「日本の安全保障と国連」	赤坂 清隆[元国際連合広報担当事務次長]
	国際情勢講演会「欧州危機と日本」 国際情勢講演会「TPPと日本」	望月 敏夫[元ギリシャ大使、外務省参事] 大島 正太郎[元政府代表(TPP 関連)]
2017 (H29)	講演討論会「越後再興」	岡本 直之[財務省大臣官房審議官]、藤井 大介[フジコーポレーション株式会社代表取締役社長]、義本 博司[文部科学省大臣官房審議官内閣官房日本経済再生総合事務局次長]、野口 一則[株式会社シアンズ代表取締役社長]、木山 光[木山産業株式会社代表取締役社長]
	シンポジウム「激動する世界と「地元の活性化」-人財育成の立場から-」	田中 明彦[東京大学教授/前国際協力機構(JICA)理事長]、玉川 基行[株式会社玉川堂7代目社長(代表取締役)]
	シンポジウム「グローバル経済と新潟の産業:新たな役割と機会」	米山 隆一[新潟県知事]、日下一正[(-財)国際経済交流財団会長]、亀田 制作[日本銀行調査統計局参事官(前新潟支店長)]、山田 正人[経済産業省地域産業基盤整備課長]、田中 通泰[(-社)新潟県経営者協会副会長]、向田 吉広[(-社)東北経済連合会副会長]
	国際情勢講演会「日本の経済外交の現状と課題」	飯田 圭哉[外務省経済局審議官]
2018 (H30)	国際産業経済研究センターシンポジウム「グローバル競争下での地域産業力を考える」	細谷 祐二[経済産業省地域政策研究官]、木山 光[新潟経済同友会幹事]、目黒 正義[(公財)にいがた産業創造機構経営支援グループディレクター]、尾島 進[(-財)新潟経済社会リサーチセンター理事]
	豪日交流基金による有識者シンポジウム「今日の国際情勢について」	Tow, William T.[オーストラリア国立大学教授]、Walker, Martin[在日オーストラリア大使館参事官]
	東大リカレント教育講座「中国の政治と経済」(第2回)	Akkemik, Ali[山口大学大学院経済学研究科准教授]
	大光銀行・新潟県立大学連携公開講座「地域に根ざす金融機関のすがた」	古出 哲彦[大光銀行取締役頭取]、渡部 滋[大光銀行地域産業支援部長]、小林 弘樹[大光銀行営業統括部長]
2018 (H30)	豪日交流基金による有識者シンポジウム「今日の国際情勢について」	Kai He[グリフィス大学教授]、Shahar Hameiri[クイーンズランド大学准教授]、Melanie Calvert[在日オーストラリア大使館参事官・政務担当]
	シンポジウム「グローバル市場で活躍し地域経済に貢献する中小企業～新潟の未来を切り拓く発展の芽とその担い手～」	豊永 厚志[株式会社みずほ銀行顧問]、小田嶋 善信[ナミックス株式会社代表取締役社長]、武本 清志[公益財団法人にいがた産業創造機構副理事長]、武田 直己[日本銀行新潟支店長]
	国際情勢講演会「朝鮮半島情勢の現状と展望:日本への影響、日本の役割」	齋藤 敦[外務省アジア大洋州局北東アジア第二課朝鮮半島政策調整官]
	国際産業経済セミナー「データサイエンスとイノベーション」	樋口 知之[情報・システム研究機構統計数理研究所長]

公開講座

新潟県立大学開学以来、地域連携センターで毎年度開催している公開講座をはじめ、各部署がそれぞれの持ち味を活かした講座を開催し、県民の皆様学習の機会を提供してきました。

地域連携センター公開講座

開催日	テーマ
2009(H21)年10月3日	とっておきの新潟学 新潟県の子育て子ども家庭福祉「復興支援が教えてくれたもの」
2009(H21)年11月7日	とっておきの新潟学 新潟県の子育て子ども家庭福祉「市民活動が教えてくれたもの」
2009(H21)年11月28日	とっておきの新潟学 外国人教師の目で探る新潟「新潟のまちなちの魅力発見」
2009(H21)年12月6日	とっておきの新潟学 外国人教師の目で探る新潟「佐渡の魅力発見」
2010(H22)年7月31日	とっておきの新潟学 新潟県の保健医療
2010(H22)年8月21日	とっておきの新潟学 新潟県の保健医療
2010(H22)年10月9日	とっておきの新潟学 新潟県の歴史と文化「村上・岩船再発見」
2010(H22)年11月6日	とっておきの新潟学 多様な隣人と新潟で共に生きる「村上・岩船再発見」
2011(H23)年10月2日	新潟で東日本大震災を受け止める 第1回新潟から危機管理を再考する
2011(H23)年10月19日	新潟で東日本大震災を受け止める 第2回新潟で核問題を考える
2011(H23)年10月29日	新潟で東日本大震災を受け止める 第3回災害文化を継承する
2011(H23)年11月26日	新潟で東日本大震災を受け止める 第4回南相馬市からの被災地「子ども支援」の報告
2012(H24)年10月7日	阿賀野川流域から世界へ 第1回阿賀野川流域を知る
2012(H24)年10月27日	阿賀野川流域から世界へ 第2回新潟で水保学を継承する
2012(H24)年12月1日	阿賀野川流域から世界へ 第3回阿賀野川流域と「阿賀に生きる」を語る
2012(H24)年12月15日	阿賀野川流域から世界へ 第4回阿賀野川流域から発信する
2013(H25)年10月12日	新潟における食の風景 第1回「パン工房マリラ」のフードスケープ～思い続けることで夢は実現する～
2013(H25)年11月17日	新潟における食の風景 第2回「ふーど工房ゆうこ」のフードスケープ～出会いが拓いた六次産業化への道～
2013(H25)年12月8日	新潟における食の風景 第3回「フェルミエ」のフードスケープ～ワインの普遍性に魅せられて～
2014(H26)年11月8日	新潟における食の風景 第1回佐渡の酒と水-日本酒のテロワール-
2014(H26)年11月23日	新潟における食の風景 第2回新潟における果樹農園の展望
2014(H26)年12月7日	新潟における食の風景 第3回頭張る農家のお母さん-郷土料理を通した津南と新潟の交流-
2015(H27)年10月10日	分かち合おう!新潟の魅力 第1回酒と食で新潟と世界を繋ぐ
2015(H27)年12月12日	分かち合おう!新潟の魅力 第2回伝統の技術が拓く世界への道
2016(H28)年11月20日	新しいつながりのかたちをもとめて 第1回映画「風の波紋」に鼓舞する新しい「結」の魅力を語り合う
2016(H28)年12月3日	新しいつながりのかたちをもとめて 第2回里親と子どもがつくる家族のかたち
2017(H29)年11月12日	地域を守る。家族を守る。～いざという時のために～ 第1回災害復興と地域づくり～大震災からの経験と教訓～
2017(H29)年12月3日	地域を守る。家族を守る。～いざという時のために～ 第2回家族を守る。～我が家のできる災害の備え～
2018(H30)年11月25日	雪を活かして新潟をもっとおいしく、もっと元気に

地域連携センター公開講座記録集



知の創造セミナー、高校生アカデミック・インターンシップ研修

新潟県教育委員会主催の知の創造セミナー、高校生アカデミック・インターンシップ研修では、本学教員の指導のもと、高校生が各自の興味関心に応じた研究活動を通して、課題解決能力等を身に付けることができました。

知の創造セミナー

実施年度	担当教員	研究テーマ
2014 (H26)年度	石川 伊織	アニメーションを作ろう!絵に命を吹き込むということ
	黒田 俊郎	IS(「イスラム国」)って何?
	高久 由美	漢字・中国・日本
	山田 知彦	海老ヶ瀬本村からコミュニティ環境を考える
2015 (H27)年度	石川 伊織	コマ録りアニメーションを作ろう!!絵に命を吹き込むということ
	小澤 薫	ふつうの暮らしって?
	坂口 淳	物品のライフサイクルから環境問題を考える
	鈴木 均	TPP, Yes or No?
2016 (H28)年度	木佐木 哲朗	異文化をもつ他者との対話に向けて
	山田 佳子	違いを知ることから始めよう～日本語と韓国語が出会う場所～
	若月 章	多文化共生社会は可能か?～身近な地域社会から共生社会の実現を検討しよう～
	小澤 薫	格差と貧困について考える
2017 (H29)年度	Stoekel, Timothy Richard	How many English words do I need to know?
	坂口 淳	新潟県の公共交通について考える
	権 肇俊	多文化共生社会と新潟の地域づくり
	永野 忠聖	食品成分の化学的性質を用いた新たな食品の可能性を探る-健康性多糖類(食物繊維)について考える-
2018 (H30)年度	石井 玲子	音楽で世界を変えられるか?
	Ng Chin Leong, Patrick	Language and Society:Who speaks what language to whom and when

実施年度	担当教員	研究テーマ
2018 (H30)年度	植木 信一	子どもにとって安心安全な居場所とは何か～災害時の子ども支援を考える～
	権 肇俊	日本の多文化共生社会づくり～外国人と共に生きる社会をつくるためには～
	神山 伸	自律神経の働きから、食生活について考える
	渡邊 松男	国際開発と新潟の人口問題
	Stoekel, Timothy Richard Bennett, Phillip	Understanding Vocabulary

高校生アカデミック・インターンシップ研修

実施年度	担当教員	研究テーマ
2018 (H30)年度	若月 章	地域の国際化と私たちの課題
	神谷 睦代	子どもの造形表現活動への理解と援助
2019 (R1)年度	黒田 俊郎	国際理解教育とジャーナリズム
	Cook, Melodie Lorie	Intending to become English teachers in the future
	細谷 祐二	二重の人口減少の下で新潟経済を活性化する方法を考える
	植木 信一	児童館で遊びのプログラムを実践してみよう

外部資金獲得状況

企業、自治体等との契約による受託研究や、各種団体が公募する研究助成事業への応募等、外部資金の獲得に向け、取組を進めています。

	2009(平成21)年度		2010(平成22)年度		2011(平成23)年度		2012(平成24)年度		2013(平成25)年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
受託事業	1	150	4	1,520	4	3,096	1	149	1	150
奨学寄附金	4	2,200	5	4,200	2	3,500	8	9,938	7	5,825
受託研究	9	11,802	7	11,894	6	11,231	9	8,414	4	6,130
共同研究	1	300	1	100	2	0	2	500	2	1,000
補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	1	815
合計	15	14,452	17	17,714	14	17,827	20	19,001	15	13,920

	2014(平成26)年度		2015(平成27)年度		2016(平成28)年度		2017(平成29)年度		2018(平成30)年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
受託事業	1	200	1	170	2	500	2	511	2	414
奨学寄附金	3	1,960	3	2,050	3	3,313	6	7,830	2	1,550
受託研究	7	4,585	2	1,102	4	2,656	8	6,254	3	1,583
共同研究	2	1,605	1	800	2	300	0	0	0	0
補助金	2	1,061	2	5,245	2	2,617	2	2,438	3	4,039
合計	15	9,411	9	9,367	13	9,386	18	17,033	10	7,586

(金額 単位:千円)

科学研究費獲得状況

文部科学省から交付される科学研究費の採択強化に向け、研修会の開催や添削支援を受ける機会の提供を通じて応募者の支援を行い、採択率の向上に努めています。

研究種目	2009(平成21)年度		2010(平成22)年度		2011(平成23)年度		2012(平成24)年度		2013(平成25)年度			
	新規		継続		新規		継続		新規			
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額		
基盤研究(A)	1	0	6,000	0	1	6,000	0	1	6,000	0	0	0
基盤研究(B)	0	0	0	0	0	0	1	900	0	0	0	4,100
基盤研究(C)	3	2	5,600	3	4	8,300	2	6	8,000	4	6	13,400
若手研究(B)	2	2	6,000	2	3	4,800	3	4	3,738	0	3	2,161
研究スタートアップ/ 研究活動スタート支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,100
挑戦的萌芽研究	0	0	0	0	0	0	2	0	1,500	0	2	1,500
研究成果公開促進費	0	0	0	1	0	1,900	0	0	0	1	0	1,300
合計	6	4	17,600	6	8	21,000	7	12	20,138	5	12	24,361

研究種目	2014(平成26)年度		2015(平成27)年度		2016(平成28)年度		2017(平成29)年度		2018(平成30)年度			
	新規		継続		新規		継続		新規			
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額		
基盤研究(A)	0	0	0	0	1	4,800	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	2	1	8,100	0	3	10,600	1	2	7,700	0	3	9,600
基盤研究(C)	5	11	14,400	2	11	14,700	6	9	13,700	3	11	11,900
若手研究(B) 若手研究	0	5	3,300	4	4	8,127	0	8	6,100	0	7	3,700
研究活動スタート支援	0	1	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的萌芽研究	0	0	0	1	0	700	0	1	500	0	1	500
研究成果公開促進費	1	0	1,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際共同	0	0	0	0	0	0	1	0	7,800	0	1	-
合計	8	18	28,100	7	19	38,927	8	20	35,800	3	23	25,700

(金額 単位:千円)

受賞

大学の社会的使命である「研究」を通じて、研究活動の質・量の両面での活性化を図りながら、学術研究の高度化への寄与のみならず、教育の質の向上に努め、その成果を学内外に還元するよう取り組んでいます。

受賞年度	学部(学科)/センター	氏名	賞
1987(昭和62)	政策研究センター	教授/袴田 茂樹	サントリー学芸賞
1993(平成5)	人間生活学部(健康栄養)	教授/村山 伸子	第20回日本生活学会研究奨励賞
1995(平成7)	国際地域学部(国際地域)	准教授/関谷 浩史	第14回日本構造協会東北地区最優秀賞
1997(平成9)	人間生活学部(健康栄養)	准教授/太田 優子	日本栄養改善学会学会賞
1998(平成10)	人間生活学部(健康栄養)	教授/田村 朝子	日本家政学会奨励賞
2005(平成17)	国際地域学部(国際地域)	教授/坂口 淳	空気調和・衛生工学会功績賞
2007(平成19)	政策研究センター	教授/山本 吉宣	第7回読売・吉野作造賞
2007(平成19)		学長/若杉 隆平	第2回日本国際経済学会小島清賞
2008(平成20)	国際地域学部(国際地域)	教授/ Ng, Ka Po	香港中文大学中国研究センター利希慎訪問研究賞
2008(平成20)		学長/若杉 隆平	国際ビジネス研究会学会賞
2012(平成24)	人間生活学部(子ども)	准教授/勝又 陽太郎	日本精神神経学会フォリア賞
2012(平成24)	人間生活学部(子ども)	講師/神谷 陸代	公益社団法人第44回日展特選(国立新美術館)
2013(平成25)	国際地域学部(国際地域)	教授/Cook, Melodie Lorie	Best of JALT Award for a Presentation, in Hiroshima in 2014
2014(平成26)	国際地域学部(国際地域)	准教授/藤井 誠二	第4回日本行動計量学会「杉山明子」賞
2014(平成26)	人間生活学部(健康栄養)	講師/堀川 千嘉	第48回日本成人病(生活習慣病)学会会長賞
2016(平成28)	人間生活学部(子ども)	准教授/勝又 陽太郎	第5回日本社会精神医学会優秀論文賞
2017(平成29)	人間生活学部(子ども)	教授/伊藤 巨志	日本保育保健協議会保育保健賞
2017(平成29)	国際地域学部(国際地域)	准教授/峯島 道夫	全国英語教育学会教育奨励賞
2018(平成30)	人間生活学部(健康栄養)	講師/堀川 千嘉	第28回日本疫学会学術総会優秀演題賞
2018(平成30)	人間生活学部(健康栄養)	講師/堀川 千嘉	第61回日本糖尿病学会年次学術集会医療スタッフ優秀演題賞
2018(平成30)	人間生活学部(子ども)	教授/植木 信一	第2回福島復興支援会内藤賞
2019(令和1)	人間生活学部(子ども)	教授/植木 信一	第32回全国地域活動連絡協議会表彰(個人の部)

概要

FDとは「ファカルティ・ディベロップメント」のことで、教員が授業内容、方法を改善し、向上させるための取り組みの総称、SDとは「スタッフ・ディベロップメント」のことで、教員と職員の組織的な取り組みの総称です。FD委員会は、大学における教育効果を十分に発揮するために、各種の研修会や公開授業を開催し、また学生による授業評価アンケート等を実施して、教員の授業内容、教授法、教育方法の改善と発展のために取り組んでいます。また、人権に関わる啓発、入試改革に関わるセミナーや研究会も実施しています。

FD・SD研修会

県立大学の開学初期には、近隣の大学の教育活動の経験からFD活動を学ぶ取り組みが行われ、その後、教材の開発方法、e-learningやmanaba folio、Web class等の教育支援システムの活用方法、発達障がいのある学生を配慮し支援する学び、近年教育現場で注目され導入されている学生の主体的な学修活動を促すアクティブ・ラーニングに関する研修会を行ってきました。

FD・SD研修会実施内容

実施年度	テーマ
2009(平成21)年度	新潟大学における教育の質を高めるための取り組み
2010(平成22)年度	教材開発の方法を学ぶ、アメリカにおけるFD活動
2011(平成23)年度	授業改善のためのe-learning活用法
2012(平成24)年度	manaba folioの活用法を学ぶ
2013(平成25)年度	大学教育改善を促進するFD・SDのあり方
2014(平成26)年度	学生の書く力考える力を育む授業実践とFD活動への展開
2015(平成27)年度	発達障がい学生支援に関する講習会
2016(平成28)年度	アクティブラーニングに関する講習会
2017(平成29)年度	高等学校でのアクティブラーニング型授業の現状と課題
	教職合同研修 ～公立大学の現状と課題～ ～教職協働の視点で考える障がい学生支援～
2018(平成30)年度	Web class講習会(1回目)
	Web class講習会(2回目)
	学生の主体的な学修活動の現状分析



公開授業

教育の質の向上のため、より充実した授業を追求することを目的として行っています。参加した教職員は、授業終了後に討論を行い、授業の感想、その学ぶべき点、改善点などについて意見を交換して、よりよい授業に向けて認識を深めます。2016(平成28)年度からは、ベストティーチャー賞を受賞した教員の授業や、アクティブ・ラーニングを実践している教員の授業を公開授業としています。



ベストティーチャー賞

ベストティーチャー賞とは、優れた授業を実践し、学生から高く評価された教員に対して表彰する賞です。年度末に実施するアンケートで学生が自身の知的成長や人間的成長に大きな影響を与えた教員に投票します。集計された投票結果を元に自己点検・評価委員会が受賞教員を選定し、翌年6月頃にベストティーチャー賞受賞教員に対して表彰式を実施しています。

ベストティーチャー賞受賞者

受賞年度	氏名	学部・学科
2013(平成25)年度	福本 圭介	国際地域学部 国際地域学科
	小池 由佳	人間生活学部 子ども学科
	曾根 英行	人間生活学部 健康栄養学科
2014(平成26)年度	鈴木 均	国際地域学部 国際地域学科
	梅田 優子	人間生活学部 子ども学科
	曾根 英行(2回目)	人間生活学部 健康栄養学科
2015(平成27)年度	Stoeckel, Timothy Richard	国際地域学部 国際地域学科
	福本 圭介(2回目)	国際地域学部 国際地域学科
	梅田 優子(2回目)	人間生活学部 子ども学科
	石井 玲子	人間生活学部 子ども学科
	曾根 英行(3回目)	人間生活学部 健康栄養学科
2016(平成28)年度	Adamson, John Lindsay	国際地域学部 国際地域学科
	堀江 薫	国際地域学部 国際地域学科
	梅田 優子(3回目)	人間生活学部 子ども学科
	石井 玲子(2回目)	人間生活学部 子ども学科
	田村 朝子	人間生活学部 健康栄養学科
	神山 伸(2回目)	人間生活学部 健康栄養学科
2017(平成29)年度	Adamson, John Lindsay(2回目)	国際地域学部 国際地域学科
	小谷 一明	国際地域学部 国際地域学科
	荒木 和華子	国際地域学部 国際地域学科
	堀江 薫(2回目)	国際地域学部 国際地域学科
	斉藤 美和子	人間生活学部 子ども学科
	田村 朝子(2回目)	人間生活学部 健康栄養学科
2018(平成30)年度	小谷 一明(2回目)	国際地域学部 国際地域学科
	Adamson, John Lindsay(3回目)	国際地域学部 国際地域学科
	Bennett, Phillip	国際地域学部 国際地域学科
	荒木 和華子(2回目)	国際地域学部 国際地域学科
	斉藤 美和子(2回目)	人間生活学部 子ども学科
	太田 亜里美	人間生活学部 健康栄養学科





学長賞、成績優秀賞

当該年度に学習成績が優秀であった者を「学長賞」「成績優秀賞」として表彰しています。2018(平成30)年度からは成績優秀賞の表彰基準を変更し、実施しています。



学長賞、成績優秀賞 受賞の状況 (表彰年度別) (単位:人)

国際地域学部国際地域学科

	学長賞					成績優秀賞				
	1年生	2年生	3年生	卒業生	計	1年生	2年生	3年生	卒業生	計
2012(平成24)年度	4	4	4	4	16	30	11	26	5	72
2013(平成25)年度	4	4	4	4	16	33	16	23	10	82
2014(平成26)年度	4	4	4	4	16	15	20	35	12	82
2015(平成27)年度	4	4	4	4	16	7	4	38	22	71
2016(平成28)年度	4	4	4	4	16	25	15	31	21	92
2017(平成29)年度	4	4	4	4	16	13	21	43	4	81
2018(平成30)年度	4	4	4	4	16	6	6	6	6	24

※在学生は翌年度に表彰。卒業生は卒業式で表彰。

人間生活学部子ども学科

	学長賞					成績優秀賞				
	1年生	2年生	3年生	卒業生	計	1年生	2年生	3年生	卒業生	計
2012(平成24)年度	1	1	1	1	4	17	4	10	5	36
2013(平成25)年度	3	1	1	1	6	4	6	20	0	30
2014(平成26)年度	1	1	1	1	4	6	4	22	7	39
2015(平成27)年度	1	1	1	1	4	8	10	21	15	54
2016(平成28)年度	1	1	1	1	4	14	22	23	12	71
2017(平成29)年度	1	1	1	1	4	10	11	25	14	60
2018(平成30)年度	1	1	1	1	4	2	2	2	2	8

※在学生は翌年度に表彰。卒業生は卒業式で表彰。

人間生活学部健康栄養学科

	学長賞					成績優秀賞				
	1年生	2年生	3年生	卒業生	計	1年生	2年生	3年生	卒業生	計
2012(平成24)年度	1	1	1	1	4	5	5	6	2	18
2013(平成25)年度	1	1	1	1	4	4	8	4	3	19
2014(平成26)年度	1	1	1	1	4	21	9	16	6	52
2015(平成27)年度	1	1	1	1	4	16	19	17	11	63
2016(平成28)年度	1	1	1	1	4	19	29	15	6	69
2017(平成29)年度	1	1	1	1	4	15	24	10	24	73
2018(平成30)年度	1	1	1	1	4	2	2	2	2	8

※在学生は翌年度に表彰。卒業生は卒業式で表彰。

外国語学習成績優秀者表彰

実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、その他の英語試験、ロシア語、中国語、韓国語の検定試験等で一定の成果をあげた学生、スピーチコンテスト等で優秀な成績をおさめた学生を表彰しています。

外国語成績優秀賞 学長特別賞、学長特別奨励賞 受賞の状況 (表彰年度別) (単位:人)

	全学										
	学長特別賞					学長特別奨励賞					
	英語	ロシア語	中国語	韓国語	計	英語	ロシア語	中国語	韓国語	日本語	計
2012(平成24)年度	4	0	3	3	10	68	5	3	11	0	87
2013(平成25)年度	11	0	1	2	14	26	0	2	4	0	32
2014(平成26)年度	4	2	2	2	10	37	5	5	5	1	53
2015(平成27)年度	6	2	2	2	12	35	2	2	3	0	42
2016(平成28)年度	7	0	1	3	11	36	1	0	6	0	43
2017(平成29)年度	2	0	1	3	6	32	6	0	6	0	44
2018(平成30)年度	11	0	5	7	23	49	4	4	4	0	61
計	45	4	15	22	86	283	23	16	39	1	362

※在学生は翌年度に表彰。卒業生は卒業式で表彰。

外国語成績優秀賞 学長特別賞、学長特別奨励賞 受賞の状況 (卒業年度別) (単位:人)

	全学										
	学長特別賞					学長特別奨励賞					
	英語	ロシア語	中国語	韓国語	計	英語	ロシア語	中国語	韓国語	日本語	計
2012(平成24)年度	1	0	0	1	2	14	3	2	5	0	24
2013(平成25)年度	0	0	2	2	4	22	1	2	6	0	31
2014(平成26)年度	7	0	2	2	11	32	1	1	5	0	39
2015(平成27)年度	2	2	3	1	8	33	5	5	1	1	45
2016(平成28)年度	7	1	0	4	12	40	1	2	6	0	49
2017(平成29)年度	4	0	1	2	7	26	1	0	5	0	32
2018(平成30)年度	7	0	2	7	16	32	6	2	2	0	42
計	28	3	10	19	60	199	18	14	30	1	262

※各年度の卒業生が在学時に表彰を受けた数の総計。

英語の表彰基準

Level	TOEIC	TOEFL	英検	IELTS	CASEC
S 学長特別賞	870	100 ibt 600 pbt	1級	7	775
A 学長特別奨励賞	730	80 ibt 550 pbt	準1級	6.5	725

かざし奨励賞

2012(平成24)年度から同窓会『かざし会』とともに、学生の地域貢献活動等の顕著な取組に対して表彰を行っています。受賞者には賞状および副賞(5万円)が授与されます。

2012(平成24)年度～2018(平成30)年度受賞者一覧									
No.	受賞者氏名(団体名)	活動概要	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1	テルテルボーイズ	特別支援学校等でのボランティア活動	○					○	○
2	サークルUNPatisserie	自分達の研究分野を生かした商品提案による地域貢献に資する活動	○						
3	ラオスクールプロジェクト	ラオスの子供達への学習支援(図書館建設)ボランティア	○						
4	陸上競技部4年生	学内に陸上競技練習環境が無い中での、北信越大会でのやり投げ、10000m走等における入賞者多数	○						
5	ウッドボールクラブ	学内に十分な練習環境が無い中での全日本選手権2位等	○						
6	新潟県立大学青年赤十字奉仕団	様々なボランティア活動の参加、献血推進活動など		○	○				
7	寺子屋つばさ100km徒歩の旅	「第6回寺子屋つばさ100km徒歩の旅」へボランティアスタッフとして参加		○					
8	青木 綾音(人間生活学部 子ども学科)	ボランティア活動、地域貢献		○					
9	緑花戦隊カダーン	構内緑化活動、環境保全活動など			○	○	○	○	
10	人形芝居サークル	地域施設への出張公演など			○			○	
11	国際ボランティアサークルNicolvE	海外貧困学生への奨学金支援事業参加、地域活性化活動など			○				
12	PEANUT	母子生活支援施設での託児ボランティア				○			○
13	国際交流ファシリテーター	県内の小中高校生を対象とした国際理解を促すワークショップの実施				○			
14	アカベラサークル mash#POTATO	演奏活動を通じた地域住民との交流活動等					○	○	○
15	女子ラクロス部	各種大会での入賞等、顕著な活動実績					○		
16	そらいろ子ども食堂	子ども食堂の運営による地域の子育て支援活動					○		
17	榎本 未希(国際地域学部)	南アジア地域の子供への支援等、国際協力活動					○		
18	ロシアサークル	ロシア語学習をはじめ、積極的なロシア文化への関わり					○		
19	軟式野球部	各種大会での入賞等、顕著な活動実績						○	
20	新潟県立大学韓国サークル	韓国伝統楽器の演奏を通しての国際交流活動						○	
21	まちづくりサークル	新潟市東区の魅力発信及び地域住民と協働して行うまちづくり活動							○
22	HABATAKE新潟県立大学支部	新潟と世界の交友関係を築く国際交流活動							○
23	黒澤 有希(国際地域学部)	様々なプログラムを通じた新潟県の国際交流活動への貢献							○
24	長山 大雅(国際地域学部)	サッカーの審判員としての各種大会での活動実績							○



アカベラサークル mash#POTATO



新潟県立大学韓国サークル



ロシアサークル



そらいろ子ども食堂



軟式野球部



緑花戦隊カダーン



国際交流ファシリテーター



人形芝居サークル

同窓会

新潟県立大学同窓会『かざし会』は、県立新潟女子短期大学同窓会『かざし会』を受け継いで組織されました。かざし会は短大の第1回の卒業式のあとに発足しました。「かざし」とは「髪挿す」で「髪や冠に花や枝を挿すこと」をいいます。1回生が卒業記念樹として桜を植えたことから、木の成長とともに母校が繁栄し桜花でおおわれることを期待して名づけられたそうです。同窓生が増えるにつれ各科同窓会が併設され、全学同窓会と各科同窓会の二重構造になりました。新潟県立大学が開学してからは、新潟県立大学同窓会と改名し、一部の各科同窓会の統合や県立大学卒業生による新しい同窓会の創設が行われました。

全学同窓会は、毎年会報「かざし」を同窓生に送付し、総会と講演会を同時開催するほか、大学教育や学生生活への支援(課外活動で成果を上げた学生を表彰する「かざし賞」の創設、サークル活動補助、新学生食堂の備品の購入補助など)を行っています。また、4年制化推進の活動では、同窓会が大きな役割を果たしました。

同窓会組織図

全学同窓会

各科同窓会



保護者会

県立の学校の維持・運営等に要する経費は本来すべて公費と納入金で賄われるべきものですが、教育活動の円滑をはかり自主的に運用できる予算の必要性から、短大の開学初年度の入学式当日に学生の保護者を会員とする「後援会」が設立されました。その後、学外の有識者による「特別後援会」設立の動きがあったため、翌年度に「父母の会」と改称されました。新潟県立大学が設立された2009(平成21)年度の終わりに「県立新潟女子短期大学父母の会」は解散となり、次年度の入学式当日には、新潟県立大学父母の会(仮称)設立準備総会が開催され、2011(平成23)年度の入学式に、改称された「新潟県立大学保護者会」の第1回総会が開催されました。

保護者会の設立目的は、「教育活動の支援及び福祉の増進を図るとともに会員相互の親睦を図る」とされており、それに沿って事業や予算が組み立てられています。保護者会の予算には、校内の環境整備、緑化推進等を補助する環境整備費、学生が企画運営する体育祭・連花祭・サークル活動への補助など学生課外活動補助費、学業成績優秀者への副賞、奨励賞・英語資格試験受験料補助・学生選書ツアー補助等の教育活動奨励費、フクさん相談室のカウンセラー謝金補助など学生生活支援費があり、さらにキャリア活動や地域交流活動の支援にも使われています。また、新潟県立大学保護者会では、毎年会報を発行し、設立されてから4年間は毎年保護者・学生・教職員が参加できる講演会を行っています。2015(平成27)年からは、新潟市と隣県で、保護者会総会とあわせて、教職員も出席する保護者会親睦会を開いています。連花祭にあわせて開催される親睦会は特に好評です。

保護者会講演会

第1回 2012(H24)年2月25日 「親が伸ばす子どもの就活力」
講師:小島貴子氏(東洋大学経営学部准教授)

第2回 2012(H24)年11月11日 「大学で身につけておくべき力とは」
講師:齋藤孝氏(明治大学教授)

第3回 2013(H25)年10月27日 「戦略的人生計画のすすめ～成熟社会を生きるヒント～」
講師:藤原和博氏(教育改革実践家、杉並区立和田中学校元校長)

第4回 2014(H26)年12月6日 「イマドキ就活と保護者の皆様ができる就活サポート」
平澤義博氏(リクナビ編集長)、「現代社会における親子関係ー母と娘を中心にー」
鈴木由加里氏(新潟県立大学非常勤講師)



保護者会会報

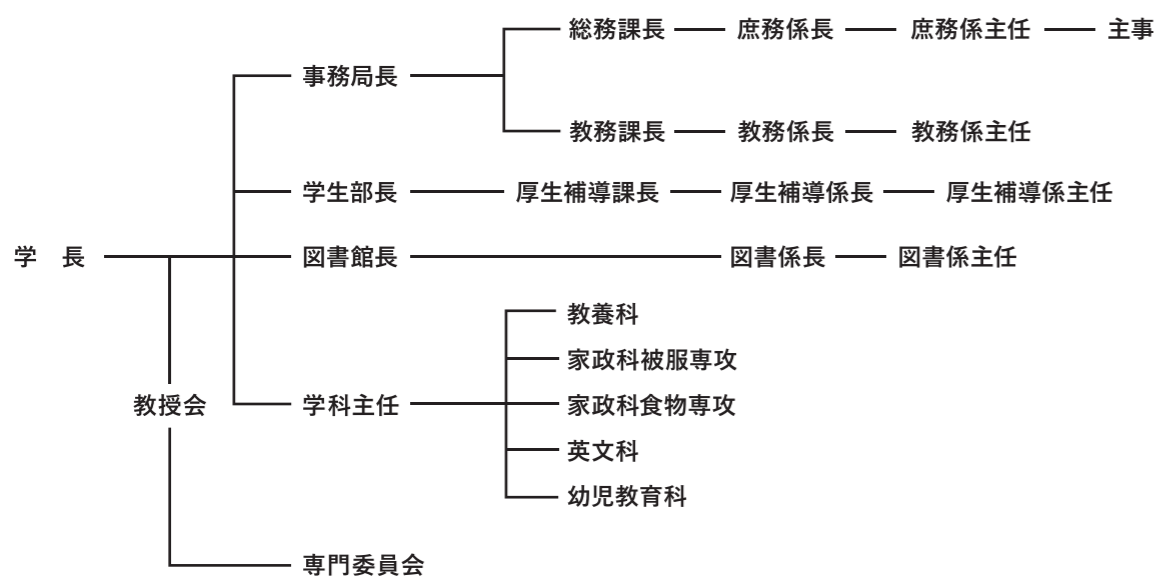
保護者会親睦会の案内

後援会

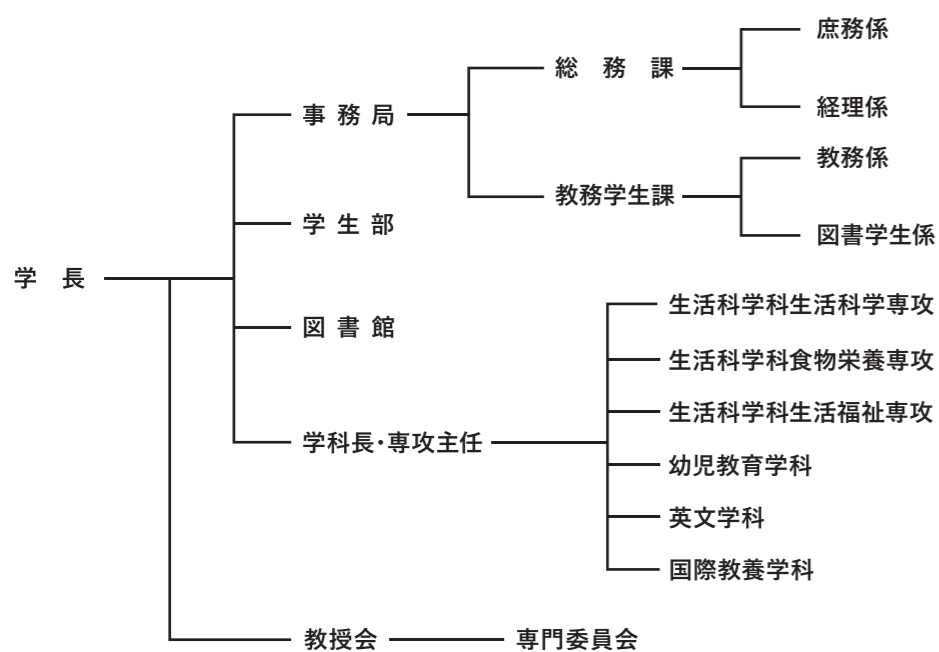
新潟県立大学後援会は、県立新潟女子短期大学後援会を受け継いで結成されました。県立新潟女子短期大学後援会は、短大の設立期成同盟会が短大設置の年の2月27日に解散するにあたり、委員の一人であった新潟市長から動議が出され、実行委員会を発展的に解消する形で「特別後援会」という名称で誕生しました。その後、「後援会」という名称で出発した学生の保護者による会が「父母の会」と名前を変えるのに合わせ、「後援会」と改名されました。後援会は、開学後の施設設備の充実、学科の増設、あるいは4年制大学への昇格等について活動を続け、このたびの県立大学の設立にあたって、重要な貢献をしました。毎年総会を開き、施設設備の充実や教育研究の支援等の活動を行っています。なお、2017(平成29)年度から総会において、本学教員による講演会を同時開催しています。歴代会長は、伊藤辰治新潟大学学長、西村二郎株式会社新潟日報社会長、新津義雄株式会社丸新石油社長、中野進株式会社シルバーホテル取締役相談役、そして本間剛三株式会社本間組取締役会長です。会員には、県議会議員、市町村会会長、市町村議会会長、高等学校校長会会長、新潟大学学長、大学女性協会・県栄養士の会、地元企業代表者、同窓会関係者等が加わっています。

県立新潟女子短期大学

1992(平成4)年度まで

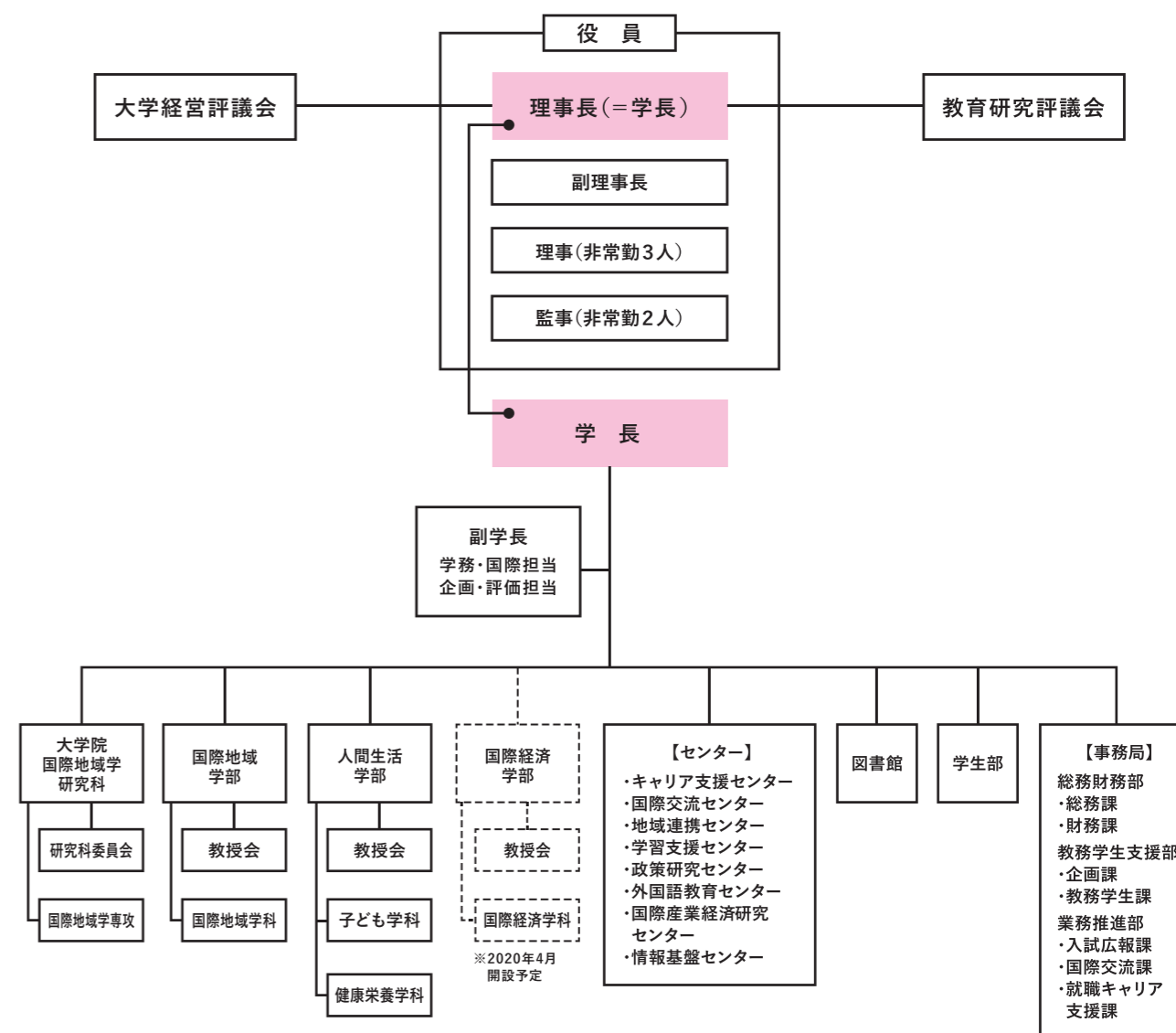


1993(平成5)年度以降



新潟県立大学

2019(令和元)年度現在



学長（在任期間）



初代学長
田沢 康夫
1963(S38) -
1972(S47)年度



第2代学長
伊藤 辰治
1973(S48) -
1980(S55)年度



第3代学長
鈴木 保正
1981(S56) -
1984(S59)年度



第4代学長
塚原 毅
1985(S60) -
1990(H2)年度



第5代学長
島津 光夫
1991(H3) -
1996(H8)年度



第6代学長
飯田 規和
1997(H9) -
2002(H14)年度



第7代学長
岸井 勇雄
2003(H15) -
2008(H20)年度



第8代学長
猪口 孝
2009(H21) -
2011(H23)年度

1963(S38)～1992(H4)年度 教員

英文科・幼児教育科は1966(S41)年度設置

教養科	家政科被服専攻	家政科食物専攻	英文科	幼児教育科
巢山 菊二 大野木 哲 田沢 康夫 寺尾 和夫 朝妻 康二 岸井 勇雄 渡辺 淑子 松木 真言 大竹 大三 林 昌道 板垣 俊一 飯田 規和	上村 六郎 小野 日出子 山崎 光子 佐藤 ミワ 金沢 明代 多田 千代 平沢 和子 柳原 文一 高橋 巧 木藤 半平 駒城 素子 大工原 健	佐々木 博昭 本間 善夫 森川 英明 原沢 久男 塚原 毅 吉田 樺 佐藤 昭子 屋井 ヒデ子 渋谷 歌子 本間 伸夫 山田 雅子 岡田 玲子 佐藤 矩子 菅 正倫 石原 和夫	稲越 徳子 塩崎 啓子 渡邊 令子 佐藤 恵美子 太田 優子 立山 千草 公文 美恵子 大沢 英一郎 川嶋 主税 長沼 重隆 森田 勝治 杉山 繁男 若林 光雄 小野 昭一 志鷹 英行 平野 日出征 佐々木 充 生田 省悟	平野 絹枝 村上 丘 澁谷 義彦 福嶋 秩子 太田 正之 佐藤 英志 【英語指導助手】 David Alan Smollen Adele Richie Francis Noel Donohoe Patrick Quinn Sandra Kimura Lisa Dreu 巢山 菊二 岸井 勇雄 吉永 トシ子 金田 利子 山岸 正 青柳 三郎 長井 春海 永澤 亀 戸張 幸正 高原 哲雄 田多 香代子 山田 和子

1993 (H5)～2009(H21)年度 教員

専攻科は2011(S23)年度まで

生活科学専攻	食物栄養専攻	生活福祉専攻	幼児教育学科	英文学科	国際教養学科	専攻科
山崎 光子 大工原 健 佐々木 博昭 本間 善夫 森川 英明 菅井 清美 山岸 明浩 坂口 淳 香海 信雄 関谷 浩史 野本 洋平	本間 伸夫 山田 雅子 岡田 玲子 石原 和夫 渡邊 令子 佐藤 恵美子 秋山 博介 立山 千草 宮西 邦夫 笠原 賀子 鈴木 裕行 大川 栄重 小場 美穂 村松 芳多子 曾根 英行 筒井 和美 田村 朝子	竹中 治彦 宮川 公子 櫻井 慶一 島崎 敬子 斎藤 美和子 姉齒 暁 秋山 博介 斎藤 裕 植木 信一 徳橋 二三男 吉見 昌弘 佐藤 拓也 石本 勝見 小池 由佳 小澤 薫	松木 真言 長井 春海 戸張 幸正 高原 哲雄 大桃 伸一 絹川 文仁 原野 明子 伊藤 巨志 金澤 妙子 岩田 遵子 梅田 優子 福島 朋子 石垣 健二 戸淵 幸夫 石井 玲子 角張 慶子 渋谷 崇行	大沢 英一郎 杉山 繁男 若林 光雄 澁谷 義彦 福嶋 秩子 太田 正之 佐藤 英志 Kathleen L. Geis 大橋 儀隆 岡村 仁一 石栗 彩子 Frank Erwin Daulton 関 昭明 小谷 一明 井上 清子 David G. Coulson 福本 圭介 茅野 潤一郎	寺尾 和夫 渡辺 淑子 板垣 俊一 青木 周三 中澤 孝之 城山 正幸 村屋 勲夫 熊谷 明泰 波田野 節子 若月 章 木佐木 哲朗 黒田 俊郎 水上 則子 三宅 登之 櫻井 直文 石川 伊織 後藤 岩奈 柳町 裕子 高久 由美 橋 文夫 堀江 薫 趙 義成 山根 麻紀 月出 皎司 山田 佳子	青木 知一郎 何 芳 朴 杞璿 権 寧俊 【語学講師】 陳如静 グリスューニオン ヴィ ターリア・ベトロヴィチ 郭莉萍 金在旭 劉 楊 張 晋 柳永吉 チメリ オリガ ヴラジーミロヴナ 侯敏 陳淑芳 高明均 ラヒナ ガリーナ イヴァノヴナ 趙延軍 魯曉雁 洪鐘銘 江宇氷 チュバーロヴァ オリガ コンスタンチーヴナ 李 平

名誉教授

塚原 毅 多田 千代 佐藤 昭子 永澤 亀 高原 哲雄 杉山 繁男	島津 光夫 山崎 光子 本間 伸夫 山田 雅子 若林 光雄 寺尾 和夫	大工原 建 渡辺 淑子 岡田 玲子 飯田 規和 戸張 幸正 香海 信雄	石原 和夫 岸井 勇雄 長井 春海
--	--	--	-------------------------

1988(S63)～2008(H20)年度(二十五年史以後) 付属幼稚園教員

高橋 祥子 太田 和恵 斎藤 優子 羽田 文子 栗田 薫 若槻 貞	端 康子 坂井 彰子 西潟 央子 飯塚 直美 田村 佳子 小林 奈央美	樋口 嘉代 渡邊 優子 藤田 直子 小澤 千裕
--	--	----------------------------------

1988(S63)～2008(H20)年度(二十五年史以後) 事務局職員

事務局長	総務課長	教務課長	教務学生課長	図書館係長	庶務係長	経理係長	教務係長	図書館学生係長
湯上 淳 北里 雅俊 中村 英男 土田 義司 飯塚 喜次 神林 修 赤川 義明 藤田 豊弘 阿部 誠一 大口 弘人 永井 薫 藤巻 勉	吉田 高男 山岸 利雄 小林 栄一 石崎 清 坂田 正明 小幡 清司 渡辺 健夫 長谷川 義雄 東理 茂 川村 豊作	吉田 高男 山岸 利雄 小林 栄一	坂田 正明 小幡 清司 渡辺 健夫 松本 利昭 澤田 靖夫 大塚 洋一	細井 顕輝 山上 利雄	佐藤 豊 小島 勉 渋谷 和夫 風間 幸江 渡辺 美津子 大屋 えり子	長沼 則次 高橋 ユキエ 風間 幸江 丸山 笙子 桑原 直子 宮崎 進 木宮 真	吉田 由照 中野 和行 丸山 栄子 江口 精子 渡辺 敏夫 酒井 正子 鈴木 雅	坂田 正明 東理 茂 新井 明 飛鳥井 フジ 鈴木 ゆり子 柴澤 伸子

主任・主事他	図書館司書他	実習助手	校医
樋口 シズ 坂井 美恵子 鶴若 好彦 渡辺 幹雄 小林 恵子 堀 節子 高橋 ミヨシ 新保 純子 尾崎 里子 関原 隆 荒木 秀子 山下 洋子 佐藤 アヤ子 大縫 香織 菅原 正人 保阪 育男 田中 節子 渡辺 麻里 長谷川 恵子	村山 真樹 渡辺 桂子 榎本 寿美子 阿部 由美子 佐藤 正子 諸本 訓子 玉井 謙蔵 荒井 百合 佐藤 正子 羽田野 正夫 小林 仁美 山本 光枝 小池 実 小山 洋美 宮尾 文武 阿部 千鶴子 雨田 幸雄 竹内 康雄	波田野 太一 丸山 智意子 佐伯 千佐 松原 美知 松田 直子 高見 和恵 内田 康子 長谷川 公子 宮川 千恵子 山田 亮文 塚田 和之 杉本 浩之 伊藤 幸子 室橋 卓郎 白杵 ひとみ 石塚 賢司 富樫 明香	鶴巻 悦子 坂井 幸子 伊藤 節子 吉原 百合子 樋口 道代 鈴木 典 玉木 友子 本間 有子 柳沼 晃子 大野 安希 渡邊 春美 長谷川 由美子

理事長・学長(在任期間)



初代理事長・学長
猪口 孝
2009(H21) -
2016(H28)年度



第2代理事長・学長
若杉 隆平
2017(H29)年度 -

役員等

理事長	副理事長	理事(非常勤)	大学経営評議会 学外委員(非常勤)	監事(非常勤)	事務局長	副理事・事務局長
猪口 孝 若杉 隆平	熊谷 伸幸 佐々木 博昭 福嶋 秩子	上村 憲司 關 昭太郎 古泉 肇 熊谷 伸幸	鬼嶋 正之	平 要志和 落田 真一 南 英雄 武藤 敏明 村山 亮太	高橋 憲一郎	加藤 敬 佐久間 研二 谷合 俊一 水沢 泰正
学長	副学長					
猪口 孝 若杉 隆平	佐々木 博昭 福嶋 秩子 黒田 俊郎 田邊 直仁					

教員

国際地域学部		人間生活学部		政策研究 センター	
国際地域学科		子ども学科	健康栄養学科		
石川 伊織 板垣 俊一 井上 清子 木佐木 哲朗 黒田 俊郎 後藤 岩奈 坂口 淳 佐々木 博昭 瀧谷 義彦 菅井 清美 高久 由美 波田野 節子 福嶋 秩子 堀江 薫 水上 則子 山中 知彦 若月 章 青木 知一郎 John Lindsay Adamson 太田 正之 小谷 一明 権 寧俊 David G. Coulson 佐藤 英志 関谷 浩史 高橋 正幸 Glen Paoletto 本間 善夫 柳町 裕子 山田 佳子	伊與部 Bethany Mueller Melodie Lorie Cook 鈴木 均 高原 尚志 茅野 潤一郎 野本 洋平 福本 圭介 藤井 誠二 Howard Gordon Brown Patrick Ng Chin Leong 李佳 坂井 秀吉 田口 一博 渡邊 松男 荒木 和華子 榎谷 圭司 渡邊 理絵 金 世朗 浅羽 祐樹 Ka Po Ng Timothy R. Stoeckel 宮崎 七湖 窪田 悠一 上村 威 陳 柏宇 Phillip Bennett 峯島 道夫	【語学講師】 クリーク オリガ・イヴァ ノヴナ 鄧慧蓉 金銀貞 クラビーヴニク リュドミ ラ・フヨードロヴナ 李丹寧 盧採煥 シネグープ マリーナ・ グリゴリエヴナ 楊微 ラヒナ ガリーナ・イヴァ ノヴナ 趙賢眞 趙延軍 王寒松 李勳昊 セミョーノヴァ インナ・ ヴラヂミロヴナ 王崇 朴恩姪	石本 勝見 大桃 伸一 斎藤 裕 島崎 敬子 戸潤 幸夫 石井 玲子 伊藤 巨志 植木 信一 梅田 優子 小池 由佳 斉藤 美和子 小澤 薫 角張 慶子 渋谷 崇行 沼野 みえ子 勝又 陽太郎 高橋 靖幸 神谷 睦代 山岸 あづみ 西村 愛	荒井 富佐子 佐藤 恵美子 田村 朝子 宮西 邦夫 渡邊 令子 太田 優子 金胎 芳子 立山 千草 村松 芳多子 曾根 英行 神山 伸 筒井 和美 永野 忠聖 安藝 真里子 遠藤 香 鴨井 久司 太田 亜里美 田邊 直仁 二見 大介 石黒 真理子 玉木 有子 村山 伸子 細田 耕平 堀川 千嘉 萩原 真 小島 唯 高橋 あずさ 辻 友美 村山 稔子 玉浦 有紀	袴田 茂樹 山本 吉宣 窪田 悠一 ※ Ka Po Ng ※ 浅羽 祐樹 ※ 上村 威 ※ Gregory J. Kasza 若杉 隆平 ※国際地域学部へ
				国際産業経済 研究センター	
				情報基盤 センター	
				荒井 恒宣	

名誉教授

石本 勝見 板垣 俊一 渡邊 令子 波田野 節子 宮西 邦夫	佐々木 博昭 菅井 清美 大桃 伸一 佐藤 恵美子 猪口 孝	戸潤 幸夫 福嶋 秩子 瀧谷 義彦 若月 章 島崎 敬子
--	--	--

事務局職員

事務局次長(兼) 総務財務部長 (総務部長)	教務学生支援部長 業務推進部長 (国際交流部長) 東京サテライト所長	総務課(総務財務課) 財務課(総務財務課) 教務学生課(教務学生図書課) 企画課(経営企画課) 入試広報課(入試課) 国際交流課 就職キャリア支援課 東京サテライト				
川村 豊作 熊谷 和隆 細田 正美 村田 明彦 込山 敦 儀同 政宏	宮下 祐一 稲葉 正夫 加藤 敏雄 阿部 一郎 中川 宇志 遠間 文男 樋浦 千佳子 皆川 朋宏 大野 秀之	石塚 賢司 川崎 有紀 木宮 真 久代 朋子 小林 傑 齋藤 知論 桜井 裕子 佐藤 裕之 篠原 千絵	杉本 浩之 高橋 真知子 滝沢 豊 鶴巻 悦子 廣澤 琢磨 宮尾 修一 加藤 浩子 熊谷 真弓 佐藤 学	津布久 晃子 渡辺 しのぶ 太田 歩 中島 良一 沼田 涉 松田 和也 相澤 秀彦 品田 有理 田中 真佐彦	金沢 里美 新保 幸代 野澤 篤史 市川 彰 熊谷 直子 熊谷 舞子 志賀 和貴 石山 史奈 藤原 智美	本間 架子 道下 陽子 阿部 義彦 三宮 卓矢 海口 秀幸 森田 由希子 山崎 達也 吉原 貴子 井比 昇

※重複する場合は、上位の職位に区分
※非常勤職員・嘱託員は除く



県立新潟女子短期大学

施設配置図 1987(昭和62)年当時



空撮 1988(昭和63)~1991(平成3)年頃撮影



空撮 2009(平成21)年当時



新潟県立大学

キャンパスマップ 2019(令和元)年5月1日現在



図書館



1号館B棟(SALC)



1号館A棟エントランスホール



3114講義室



ばれっと(学生食堂)



4101大講義室



1313講義室